

琉球大学学術リポジトリ

ニワトリのジフテリアの予防とちりょう法 一つゆ
期にそなえてー

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19835

ニワトリのジフテリアの 予防とちりよう法

……つゆ期にそなえて……

筋肉注射の部位（胸のきんにく内）とその姿勢



一、この病気はいかにして起るか？

年中で産卵、育すうのもつとも盛んな時期が過ぎてそろそろつゆ期に入ります。

つゆ期は気温と湿度に急げきな変化が来る時で、養けい家がなやむのもこのころである。

それではこの病気はいかなる時にいかにして起るかと申しますと、先ず気温や湿度の急げきな変化などあるいは周囲の衛生がよくない時に起るのである。

ヒナにおいては、ヒナを育てる時に、育すう器の温度や風どうしの調節がうまくいかず、いわゆるむらしたり、あるいはすぎま風をよけいに入れたりしたために、ヒナがカゼをひき、とうとう体でのいこう力を失つて本病にかゝるのが主な原因だとされています。

最近、この調子で行けば養けい王国にまでなるのではないかと思われる程に各地に養けいが盛んになり、年月と共にその技術や知識も一般的に向上して来た。

その一方、朝夕卵をひろい集めるのは非常に熱心だがふん受けのふんは床をつきそうになつても大事なそうじを忘れがちな所があちこちに見受けられる。

育すう器やとまり木の下などのふんは、たえずはつこうしているで、これからいろいろ有害毒ガスが発生し、もし通風が悪いとこれ等のガスがニワトリの目や鼻をしげきしてねんまくに病気を生じせしめる。

これが原因となつて色々な病気に悪変し、やがては手もつけられない様な時もあるのである。いずれにしても、一たんこの病気が大ぜいのニワト

リの中に発生すると、そのまゝ、ほつたらかしておくと、次から次へと他の健康とりにでんせんし、やがては全部のニワトリにでんせんするのである。それではこのばいきんはニワトリの体中のどの部分にいるかと言うと、体内のいろいろなきかに存するのではなく、上あごのねんまく、あるいははなじる、あるいは目やになどに多量に存している。そしてこれ等のしんしゆつ物の病毒が飛散つて他のニワトリの目や鼻にくつついてでんせんするのである。

この病気は主はじめしたつゆ期を目がけて発生するが、四季を通して常在しているので注意しなければいけません。

二、その病気はどうしてわかるか？

最初は人間がカゼをひいた時のように、しよつちゆうはなじるを出し、目にうつると、けつまくえん（目があかくなる）を起して目が異常になみだづるおつているのに気がつく。

これが進むと、鼻じるは次第にこゆくなつて黄色のねん液となり、やがて鼻にくつつく。又口の中のねんまく、上あごのみぞ、舌の根つこのあたりには、灰白色のはん点が生じ、それが増えると同状になる。

眠においては、チーズあるいはトウフカスのようなものがたまり、まぶたがはれて来る。

これがノドのふきんに起ると呼吸こんなんのためちつそく死することもある。この病気が悪化する、どくどくのいやなおいを発するので、なれた人には、においだけでも病気をはんだんすることが出来るようになる。

この病気は五〜六週間から一〜二カ月間も長びき中ピナ時代にかゝると病気も重く、死亡率は五〇%あるいは全部死ぬることもある。

三、いかにして此の病気を防ぐか？

前にも申上げたようにこの病気は年中を通じて存在しているが、とりわけ今ごろのつゆ期に多く生ずるのである。

それで、特につゆ期は気温や湿度に変化がはげしいので、飼育管理には充分注意をしなければならぬ。

それには栄養をよくして体のていこう力を高め、ふんやし理は長びかぬよう、けい舎は常にかんそうを保ち、風通しや、光も充分受けられるように心がけることが病気を未然に防ぐことである。

四、いかにして此の病気をなおすか？

いかなる病気でもそうであるが病気が発生して間もない程ちりよりの効果は高い。ではこゝで間もないころとは何時ごろかと言うと鼻じるを出したり、眼になみだを流したりしてどうもそれらしいとがわしくなつたころである。

これをこゝくも速く発見出来ればニワトリも多く助かる上に薬品代や手かずもかるくすむので正に一石二鳥である。

この病気のちりようにはサルファゼいやこうせい物質などが使われているが、もつとも効果的であると云われているこうせい物質について申上げたい。

これには先ずベニシリンとストレプトマイシンがある。これ等は単味で注射しても効果が両者を同時に使うとなお効果があるようである。

即ち初期のものにはベニシリン五・〇〇〇単位とストレプトマイシン一〇ミリグラム・中期、後期で病勢の進んだものにはベニシリンを二万単位とストレプトマイシン二〇ミリグラムを三日から五日間、きん肉あるいは皮下に連日注射すると相当病気が重くなつたものでも元氣になつて次第にかいふくするのである。

次に予防液と免疫血清について述べてみます。病気の初期には免疫血清は非常に有効だが、重病のニワトリには効果がいちじるしくげん退する。血清を用いる場合は予防とちりよりの使用量がちがうので次の通りしていただきたい。

予防	ちりよ
一カ月ヒナ	一〇〇
二カ月ヒナ	二〇〇
三カ月ヒナ	三〇〇
成けい(わかどり)	四〇〇
血清の有効期間は約一カ月間でそれ以上たつた場合は予防液を注射してニワトリを免疫にする必要がある。又血清は速効性があるので病気が発生した時にきん急しよちとして予防の目的に使われるのが普通である。	

予防液は諺んで字の如く予防にはきくが、ちりよにはきかない。

予防液によるめんえきは注射後約三週間にして生ずる。もし群鶏の中に、一羽でも病気にかゝつたニワトリを発見したら直ちに血清を注射することゝがのぞましい。これはこの時他のニワトリもすでにかかつているであろうから予防液では最早効果がなからである。予防液の使用量を示すと次の如くである。

一回目注射の場合	二回目注射の場合
一カ月ヒナ	〇・五〇〇
二カ月ヒナ	〇・六〇〇
三カ月ヒナ	一・〇〇〇
成けい(わかどり)	一・五〇〇
	二・〇〇〇
	二・五〇〇
	三・〇〇〇
	三・五〇〇
	四・〇〇〇
	四・五〇〇
	五・〇〇〇
	五・五〇〇
	六・〇〇〇
	六・五〇〇
	七・〇〇〇
	七・五〇〇
	八・〇〇〇
	八・五〇〇
	九・〇〇〇
	九・五〇〇
	一〇・〇〇〇
	一〇・五〇〇
	一一・〇〇〇
	一一・五〇〇
	一二・〇〇〇
	一二・五〇〇
	一三・〇〇〇
	一三・五〇〇
	一四・〇〇〇
	一四・五〇〇
	一五・〇〇〇
	一五・五〇〇
	一六・〇〇〇
	一六・五〇〇
	一七・〇〇〇
	一七・五〇〇
	一八・〇〇〇
	一八・五〇〇
	一九・〇〇〇
	一九・五〇〇
	二〇・〇〇〇
	二〇・五〇〇
	二一・〇〇〇
	二一・五〇〇
	二二・〇〇〇
	二二・五〇〇
	二三・〇〇〇
	二三・五〇〇
	二四・〇〇〇
	二四・五〇〇
	二五・〇〇〇
	二五・五〇〇
	二六・〇〇〇
	二六・五〇〇
	二七・〇〇〇
	二七・五〇〇
	二八・〇〇〇
	二八・五〇〇
	二九・〇〇〇
	二九・五〇〇
	三〇・〇〇〇
	三〇・五〇〇
	三一・〇〇〇
	三一・五〇〇
	三二・〇〇〇
	三二・五〇〇
	三三・〇〇〇
	三三・五〇〇
	三四・〇〇〇
	三四・五〇〇
	三五・〇〇〇
	三五・五〇〇
	三六・〇〇〇
	三六・五〇〇
	三七・〇〇〇
	三七・五〇〇
	三八・〇〇〇
	三八・五〇〇
	三九・〇〇〇
	三九・五〇〇
	四〇・〇〇〇
	四〇・五〇〇
	四一・〇〇〇
	四一・五〇〇
	四二・〇〇〇
	四二・五〇〇
	四三・〇〇〇
	四三・五〇〇
	四四・〇〇〇
	四四・五〇〇
	四五・〇〇〇
	四五・五〇〇
	四六・〇〇〇
	四六・五〇〇
	四七・〇〇〇
	四七・五〇〇
	四八・〇〇〇
	四八・五〇〇
	四九・〇〇〇
	四九・五〇〇
	五〇・〇〇〇
	五〇・五〇〇
	五一・〇〇〇
	五一・五〇〇
	五二・〇〇〇
	五二・五〇〇
	五三・〇〇〇
	五三・五〇〇
	五四・〇〇〇
	五四・五〇〇
	五五・〇〇〇
	五五・五〇〇
	五六・〇〇〇
	五六・五〇〇
	五七・〇〇〇
	五七・五〇〇
	五八・〇〇〇
	五八・五〇〇
	五九・〇〇〇
	五九・五〇〇
	六〇・〇〇〇
	六〇・五〇〇
	六一・〇〇〇
	六一・五〇〇
	六二・〇〇〇
	六二・五〇〇
	六三・〇〇〇
	六三・五〇〇
	六四・〇〇〇
	六四・五〇〇
	六五・〇〇〇
	六五・五〇〇
	六六・〇〇〇
	六六・五〇〇
	六七・〇〇〇
	六七・五〇〇
	六八・〇〇〇
	六八・五〇〇
	六九・〇〇〇
	六九・五〇〇
	七〇・〇〇〇
	七〇・五〇〇
	七一・〇〇〇
	七一・五〇〇
	七二・〇〇〇
	七二・五〇〇
	七三・〇〇〇
	七三・五〇〇
	七四・〇〇〇
	七四・五〇〇
	七五・〇〇〇
	七五・五〇〇
	七六・〇〇〇
	七六・五〇〇
	七七・〇〇〇
	七七・五〇〇
	七八・〇〇〇
	七八・五〇〇
	七九・〇〇〇
	七九・五〇〇
	八〇・〇〇〇
	八〇・五〇〇
	八一・〇〇〇
	八一・五〇〇
	八二・〇〇〇
	八二・五〇〇
	八三・〇〇〇
	八三・五〇〇
	八四・〇〇〇
	八四・五〇〇
	八五・〇〇〇
	八五・五〇〇
	八六・〇〇〇
	八六・五〇〇
	八七・〇〇〇
	八七・五〇〇
	八八・〇〇〇
	八八・五〇〇
	八九・〇〇〇
	八九・五〇〇
	九〇・〇〇〇
	九〇・五〇〇
	九一・〇〇〇
	九一・五〇〇
	九二・〇〇〇
	九二・五〇〇
	九三・〇〇〇
	九三・五〇〇
	九四・〇〇〇
	九四・五〇〇
	九五・〇〇〇
	九五・五〇〇
	九六・〇〇〇
	九六・五〇〇
	九七・〇〇〇
	九七・五〇〇
	九八・〇〇〇
	九八・五〇〇
	九九・〇〇〇
	九九・五〇〇
	一〇〇・〇〇〇
	一〇〇・五〇〇

(古謝瑞幸)